

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

近くて遠きは……インドネシア研究者が見たマレーシア語

加納啓良 (東京大学名誉教授)

2011 年 6 月 28 日付 The Daily NNA の「マレーシア知識探訪」の欄に、井口由布さんが「マレーシア語とインドネシア語」という題の一文を寄せておられる。マレーシア語専攻の立場から 2 つの国語を比較されたものだが、その続きのような話を書かせていただく。ただし私はマレーシアよりもインドネシア地域研究の方が専門なので、立場は井口さんとは逆になる。

マレーシアを旅したり、マレーシア語の文献を読んでいると、インドネシア語にはない言葉や言い回しに出くわして面食らうことが少なくない。そういうときにメモしたマレーシア語とインドネシア語の私家版比較対照表が、この 10 年ぐらいの間にずいぶんたまってすでに千数百語ぐらいに達している。マレー語とインドネシア語の比較辞典としては、例えばシンガポールで 1991 年に刊行された Times Comparative Dictionary of Malay-Indonesian Synonyms (486 p.) がありその収録語数には及ばないが、個人専用の単語帳としては十分実用になるところまで来た。その対照表を眺めていると、マレーシア語とインドネシア語の語彙の相違は、いくつかのタイプに類別されることに気がつく。主なタイプを挙げてみよう。

第 1 は、井口さんも指摘されたように、同じものを指すのにマレーシアでは英語起源、インドネシアではオランダ語起源の語を用いる場合である。例えば、「タオル」はマレーシア語では towel がなまった tuala だが、インドネシア語では handdoek が起源の handuk が使われる。暦の 3 月はマレーシアでは March が起源の Mac だが、インドネシアでは Maart が起源の Maret である。

第 2 は、同じものを指すのに違う単語を当てる場合だ。例えば、「旅人」はマレーシア語では pelancong だが、インドネシア語では欧米語起源の turis かサンスクリット語起源の wisatawan を用いる。「旅行代理店」はマレーシア語では agensi pelancongan だが、インドネシア語では biro perjalanan (biro は bureau に由来)。「観光バス」はマレーシアでは bus persiaran だが、インドネシアでは bus pariwisata である。「非常口」はインドネシアでは pintu darurat だが、マレーシアでは pintu kecemasan である。困ったことにインドネシア語では kecemasan は「不安、恐怖」を意味する。そんな扉から逃げ出したら命が危ないということになる。「ネクタイ」はインドネシアでは dasi だが、マレーシアでは tali leher だ。これもインドネシア人には首つりの紐のように聞こえるから始末が悪い。「一方通行路」を意味する jalan sahala は、インドネシア人には分からない。サハラ砂漠にちなんで付けられた通りの名前と誤解した、という笑い話がある。(インドネシア語では jalan searah と言う。)

第 3 は、もともと同じだった言葉の意味や用法が違ってしまった場合だ。タクシーの運転手に「Uターン」するよう頼むのにマレーシアでは Sila berpusing と言うだろうが、インドネシアでは Tolong berputar balik と言わねばならない。berpusing には「ぐるぐる回るように頭が痛い」という意味があるからだ。マレーシアでは人を「招待」するのに jemput と言うが、この語はインドネシアでは「迎えに来る」という意味で使う。今夕あなたを jemput するとマ

レーシア人に言われたのでインドネシア人がホテルで待っていたら一向に迎えに来なかった、マレーシア人のほうではせっかく招いたのに現れないのがっかりした、というのは、たぶん両国のいずれでもよく知られた笑い話である。

なおマレーシア語では「毒」を意味する bisa をインドネシア語では「～できる」の意味で使うが、これはジャワ語の isa (イソ) が語源と言われている。ジャワ語はマレーシア語とは別の言語だが、ジャワからの出稼ぎ者の多いマレーシアではジャワ語の看板を見かけることがある。写真はイポーの町で見かけた薬屋だが、看板の Sido Muncul は「ついに登場」の意味のジャワ語で、ジャワ生薬 (jamu) を扱う店であることが一目瞭然だ。クアラルンプールのチョウキット通りにあるインドネシア料理店の屋号 Sido Mampir も、インドネシア語ではなく「立ち寄りました」を意味するジャワ語だ。



< 筆者紹介 >

1948 年、東京生まれ。東京大学経済学部卒。アジア経済研究所を経て、東京大学東洋文化研究所助教授、同教授。2012 年 3 月末に東京大学を定年退職し、6 月から同名誉教授。他に京都大学東南アジア研究所特任教授、インドネシア大学特任教授などを兼任。インドネシアを中心に東南アジアの経済・社会・歴史を研究。主な著作に、『インドネシア農村経済論』(勁草書房、1988 年)、『中部ジャワ農村の経済変容・チョマル郡の 85 年』(編著、東京大学出版会、1994 年)、『インドネシアを齧る』(めこん、2003 年)、『現代インドネシア経済史論』(東京大学出版会、2004 年)、『インドネシア検定』(監修・執筆、めこん、2010 年)、『東大講義東南アジア近現代史』(めこん、2012 年) など。